

とよ・たち

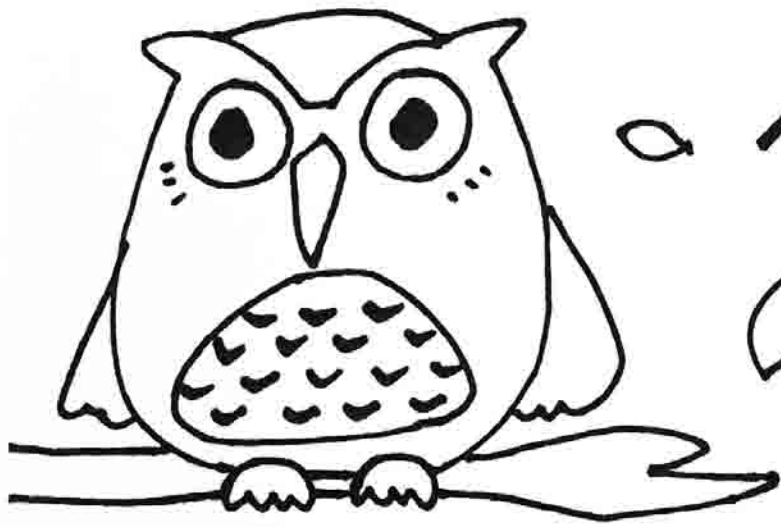
美肌通信

11月号 vol.64

Auhhhh

SAYO





○ 今月号の表紙

秋の夜に月に向ってわんちゃんか
うなる!? ラレる姿がかわいい絵です。

本を読む事が趣味で、

得意な事は、鳥と会話すること!!!

ふくろうが好きな女の子が
描いてくださいました♡♡

院長はじめ、スタッフ一同

心より感謝いたします。

仕事とは辛いものである。これを端から否定する人はおそらくいないでしょう。では、仕事とは「これも自分のつとめだ」、そう思って働く人の方がまして少し長続きするのかも知れません。しかし「つとめだ」として働く人は疲れ易い。また、辛いが辛抱するという人もいる。辛抱はある意味暗い心の姿である様に思う。従っていつかは限界がくる。では人生を明るく開く道はというと、仕事を楽しむ位に行ることだと思ふ。

仕事を楽しむ？ そんなことそう易々と出来たら誰が苦労はしないよ！ 周囲から失笑されることは想像に苦慮しない。しかしこれを実行した人がいる。

稲森和夫氏はかつて新卒で入社した会社にとことん嫌気がさしたという。しかし彼は会社留まり心術を変えた。自分は素晴らしい仕事をしているのだと無理矢理そう思い込み仕事に打ち込んだ。すると不思議とあれ程嫌だった会社が好きになり仕事が面白くなってきた。次々に楽しくて

しかたなくなってきたというのです。その後一部署のリーダーを任せ、赤字続きの会社で唯一黒字を出すまでになったそうです。

論語に、「子曰くこれを知る者はこれを好む者に如かず。これを好む者はこれを楽しむ者に如かず」という一節がある。これを「知好楽」といいます。（これを知っているだけの者はこれを愛好する者に及ばない。これを愛好する者はこれを真に楽しむ者に及ばないという意味です）。

つまり、何にしてもそれを楽しむまでの境地に至って初めて事を成すことが出来る。本物になるということでしょう。

「知好楽」でいう「楽」とは「真楽」ということです。

真楽とはその対象となるものと向き合い一体となつてはじめて自己の深奥から湧き上ってくる楽しいという感情のことを指すといひます。私達で置き換えれば、日々の苦難に直面しても思いが後退することなくその苦難と一体となり乗り越えられるべく

心が躍る位にならなければいけない。
何でも勇んで取り組む心構え、常に明るく
働く心構え、これが一番楽しい働き方
なのだということでしょう。これはそう語りか
けているのだと思います。

院長・拝